



きりえ「春の海辺」(チュウシャクシギ) : くすだひろこ

## 希望に向かって 羽ばたこう！

**新年 おめでとうございます！！**

2019年1月

和白干潟を守る会の環境保全活動は31年目を迎えます。会員の皆さまのおかげで長く続けてくることができました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり、クリーン作戦、鳥類調査、水質・砂質調査、和白干潟通信やパンフレットの発行、ホームページでの広報などの多くの活動をしてきました。昨年は30周年とともに、3月には「日本自然保護協会」より「日本自然保護大賞」を受賞しましたので、6月に「30周年記念・日本自然保護大賞受賞記念シンポジウム」を開催しました。30年誌「未来につなごう和白干潟」も作成しました。また11月には「地域づくりネットワーク福岡県協議会」より「ふくおか地域づくり活動賞」準グランプリを受賞し、「あしたの日本を創る協会」より「あしたのまち・くらしづくり活動賞」振興奨励賞を受賞しました。30回目の和白干潟まつりはお天気に恵まれて参加者も多く、楽しく輪が広がりました。昨年10月の第13回ラムサール条約締約国会議で国内では2か所の湿地が登録されましたが、残念ながら和白干潟は登録されませんでした。今後ラムサール条約に登録されるように活動を続けていしましょう！「山・川・海の流域会議」では、立花山・唐原川・和白干潟の保全6グループと個人が連携して、立花山から和白干潟の集水域保全活動を続けています。ミヤコドリは今冬は25羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも20羽を確認しています。ツクシガモは今冬は飛来が遅く12/31に138羽を確認しました。

2019年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。31年目の今年も、和白干潟を守る活動に皆さまのご協力をお願いします。多くの方が和白干潟の環境保全活動に参加して、和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となることを願っています！今年もどうぞよろしくをお願いします！

和白干潟を守る会 代表 山本 廣子



# 第30回 和白干潟まつり開催（11月25日）



2018年11月25日（日）11：00～15：15 第30回目のおまつりを祝福するような晴天の中、暖かく過ごせました。約550名の参加者があり、嬉しかったです。タッチプールや観察会などには、子どもたちも多く参加していました。今回は新しいブースもあり、タッチプールとお絵かきコーナーや自然遊びコーナーもにぎわっていました。食べ物のお店も楽しく参加いただきました。ステージも今回はペルーの方の演奏をしながらの合唱もあり、国際的な感じもしました。暖かい干潟の前で一日楽しくゆったりと過ごすことができ、豊かなつながりが広がったのではないのでしょうか。反省会や後片付けなど、最後まで力を合わせて頑張ることができました。会場整備にあたっては(株)環衛サービスの方々にご協力頂きました。ありがとうございました（実行委員長：山本廣子）



## 開会式

第30回干潟まつりを祝うくす玉割りや、感謝状贈呈をしました。



## バードウォッチング

「野鳥の会」の田村さん、成田さん、片山さんの指導で100名参加、49種の鳥を観察。



## 自然あそび

自然観察指導員の堀講師の指導で子ども7名、大人9名が参加。自然の面白さを体験しました。



## 植物観察

田中さん、荒牧さん、河内さんの指導で、子ども6名、大人6名が参加。ハママツナの塩味を確かめたりしました。



## 干潟の生きもの観察

藤井講師の指導で、子ども15名、大人12名参加。寒くなったのでなかなかカニたちが見つけられませんでした。



## タッチプール

マリワールドのヒトデなどが入ったタッチプールと魚の水槽展示は子どもたちに大人気でした。



## 器楽演奏

### 「モジャッコ」

ペルー人メンバー2名とオカリナ奏者の参加で、南米音楽や海のメロディを演奏しました。



## コーラス

### 「うたごえサロン」

10名で「ミヤコドリ」や「海」などの歌を、会場を巻き込んで歌いました。



## エプロンシアター

森さんと生協の池田支部長が「和白干潟の生きものたち」を演じました。



## 紙芝居

有江さんが「ひがただ いすき」を演じました。

# ラムサール条約登録を目指して...550名参加 (高田 将文)



## 九州青年合唱団

9名で「和白の春」や沖縄の歌を楽しく歌いました。



## マジックショー

4名でリレーマジックをしました。大人も子どもも楽しく見ました。



## 守る会新設

### お絵かきコーナー

子どもたちが絵を描き掲示してにぎわいました。



## 一言アピール

6団体が活動や催し物についての予告等をアピールしました。



## 手をつないで

大勢で手をつなぎ、海への思いを楽しく表現しました。



## 干潟の掃除

30名が参加して、浜辺のアオサやゴミを回収しました。



## 写真展・パネル展

パネルは和白小観察会の発表など好評でした。



## 模擬店・バザー

出店者17。食べ物関係5店舗。いずれも好評で、完売しました。

## 第30回和白干潟まつりラムサール宣言 (抜粋)

1. 私たちは、これからも大切な和白干潟の保全活動と環境保全の啓発活動を続けて行きます。
2. 福岡市に、市民にむけて、和白干潟が福岡市の貴重な自然であり、保全の大切さを理解できる取り組みを進めることを求めます。
3. 福岡市に、「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国の特別鳥獣保護区申請の方針を定め、具体化へ向けて早急に取り組むことを求めます。
4. 福岡県に、「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国の特別鳥獣保護区申請を福岡市へ働きかけることを求めます。
5. 環境省へ、「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる特別鳥獣保護区設定申請を促すことを求めます。

2018年11月25日

第30回和白干潟まつり参加者一同

## 福岡市長からのメッセージ

第30回和白干潟まつりの開催をお喜び申し上げます。和白干潟まつり実行委員会の委員の皆様をはじめ、参加者の皆様におかれましては、30年の長きに亘り、和白干潟の環境保全活動に熱心に取り組んでおられますことに、心から敬意を表します。

福岡市では、第二次博多湾環境保全計画に基づき、「生きものが生まれ育つ博多湾」の実現に向け、市民、NPO等市民団体、事業者、大学等研究機関など、各主体との共働による博多湾の環境保全施策を進めているところです。

今まで以上に、干潟の環境保全の取り組みが広がり、和白干潟の自然が次の世代に引き継がれていくことを祈念いたしております。

平成30年11月25日

福岡市長 高島 宗一郎

# 和白干潟の自然だより（秋～冬）

（山本 廣子）

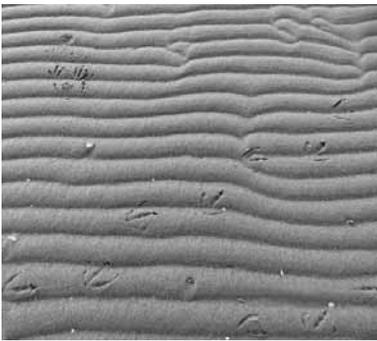
## ハマボウの紅葉 アオイ科

牧ノ鼻にあるハマボウの群落地から種が流れ着き、和白干潟沿岸にはハマボウの木が増えてきました。唐原川河口でもアシ原でも、海の広場付近にも生えています。夏には黄色い花を咲かせて、和白干潟を彩ります。この木は落葉低木で、秋には紅葉します。黄色や橙色に染まり、晩秋の和白干潟をハママツナとともに秋色に染めています。枝先には花の後の実が生っており、中に種がたくさん入っています。この種が沿岸にどんどん広がって、ハマボウの生える海岸を作っていくことでしょう。昨秋の和白干潟沿岸の樹木や草の紅葉はとても美しかったです。紅葉を見ていると心が和みます。



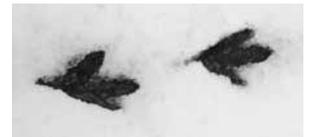
ハマボウの紅葉

## 砂紋や鳥の足跡



砂紋とカモやカラスの足跡

冬の和白干潟では、潮が引いた干潟上に砂紋や鳥の足跡が残されています。夏は波静かな和白干潟で、砂紋ができることは余りありませんが、冬には北西の季節風が吹きつけて干潟上には砂紋がたくさんできます。そこにはカモやシギ、サギやカラスたちが訪れます。鳥たちの足跡が残り、観察会に来た子どもたちは宝物を発見したように喜んでいますが、はかなさゆえにかけがえのない宝物なのでしょう。鳥の足跡は、カモやシギ、サギ、カラスなどそれぞれに特徴があり、どの鳥のものかわかります。オオバンは特に可愛いです。



オオバンの足跡

## ダイシャクシギ シギ科 全長：58cm

ダイシャクシギは冬鳥として和白干潟を訪れています。1990年代には10羽を超える羽数が越冬していました。ミヤコドリも同じくらいの羽数がいて、仲良く一緒にいました。私が鳥見をするようになって、一番に好きになった鳥です。観察会に来る子どもたちにもダイシャクシギの長い首や口ばしが印象に残るのか、よく子どもの絵に登場します。カニが大好きで良く食べます。しかし人工島工事が始まると、徐々に渡来数が減ってきました。2011年以降は毎年1～2羽しか訪れていません。和白干潟で絶滅しませんように！



ダイシャクシギ

## 冬の和白干潟のしぜん

和白干潟には自然海岸があります。冬のアシ原ではクコやノイバラ、シャリンバイ、トベラなどの木の実が豊かに生っており、シロハラやツグミが見られます。枯れたアシ原ではオオジュリンやツリスガラもやってきます。ウグイスの地鳴きも聞こえます。ハマシオンの綿毛やアシの穂もホクホクにふくれて、アシ原の中は暖かです。センダンの木の葉が落ち、可愛い葉痕が見られます。

冬の和白干潟には北西の風が吹きつけ白波が立ち、引いた干潟には砂紋が美しく残ります。寒いのでウミナも干潟に潜ってしまい、何もいない砂浜に見えます。12月には冬鳥がそろいました。ミヤコドリは2018年12月現在25羽が越冬中です。クロツラヘラサギは最大20羽が飛来し、ツクシガモは138羽を確認しました。このところ渡来数が減少しています。今冬はアオサが11月中に干潟から減ってしまい、アオサを食べるヒドリガモもぐっと減ってしまいました。アオサの大量発生は困りものですが、無くなってしまうのもカモが減ってしまい寂しいものです。



## 福岡市長選に公開質問状を出しました!

11月に行われた福岡市長選挙の立候補予定者に10月21日「和白干潟のラムサール条約登録」に関する質問状を出し、回答をHPに掲載しました。無所属新人候補は「登録すべきであり、積極的に進める」と回答しましたが、「将来的な課題」と答えた現職市長が当選し、まともや先送りされる懸念が。

## 2018年日本の新たなラムサール条約登録湿地は2か所

10月18日、ドバイで開かれた第13回ラムサール条約締約国会議で、東京都江戸川区「葛西海浜公園」と宮城県南三陸町「志津川湾」の2か所が登録され、日本のラムサール条約登録湿地は52か所となりました。葛西海浜公園の場合、一部がオリンピックの競技場候補となったことで注目され、自然を守る機運と市民運動の継続の力が実り競技場計画は変更され、東京都初の登録が実現したものです。

## 平成30年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」で振興奨励賞受賞!

11月4日、(公財)「あしたの日本を創る協会」主催で地域づくり、くらしづくり、人づくりの活動に取り組んでいる地域活動団体が表彰されました。守る会は振興奨励賞(20団体)を受賞しました。



## 「ふくおか地域づくり活動賞」で準グランプリ受賞!

11月23日北九州市八幡区黒崎コムシティで開かれた「ふくおか地域づくりフォーラム」(主催:地域づくりネットワーク福岡県協議会)に参加し「和白干潟を守る会」は準グランプリを受賞しました。約70名の参加者が5団体のプレゼンテーションを聞いて、グランプリを決める投票をしました。(有江)

## 九州産業大学で特別講義「未来につなごう和白干潟!」

11月17日、今年も山本さんの講義が九産大宗像ゼミでありました。参加は学生や一般含め45名。和白干潟の自然、今年30年目になる和白干潟を守る会の保全活動、皆さんに望むことをテーマごとにプロジェクターと、ビデオの映像やきりえの映像を映しながらの講義でした。四季折々の自然と、守る会の会鳥ミヤコドリなど渡り鳥の越冬について話しました。(田辺)



## バードウォッチング in 和白干潟 2018 (主催:和白干潟保全のつどい)

12月8日、今季一番の寒さの中、総勢24名の参加で、20種の渡り鳥を観察しました。ミヤコドリ、ツクシガモも数が増え、クロツラヘラサギも見ることができました。「こんなにたくさんの鳥が見られて大満足です」「これだけの鳥たちが見られる環境を守ってくださっていることに感謝です」との感想がありました。寒さにめげず参加した人に、冬鳥たちのいきいきした様子を見てもらうことができ、嬉しく思いました。(今村)

## 和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます!!

- ★12/21「MS&ADインシュアランスグループホールディングス」様より寄付金を頂きました。
- ★12/26「住友ゴム工業(株)、日本ユネスコ協会連盟」様より応援金を頂きました。

### 気が付いたらあなたも電話してください!

\*\* お願い!! \*\*

- ▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時  
092-282-7146(港湾空港局維持課)
- ▼沖のアオサをとってほしい時  
092-282-7153(港湾空港局環境対策課)



- 干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう!
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう!

弱った野鳥を見つけた時 → 092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)  
092-643-3367 福岡県環境部自然環境課野生生物係

## 2018年9月

- 9/2 (日) 2018年秋期シギ・チドリ調査2回目(今津)  
和白干潟通信128号編集会議
- 9/3 (月) 香住丘雨水道見学会
- 9/8 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 9/9 (日) 2018年秋期シギ・チドリ調査2回目  
(博多湾東部)
- 9/11 (火) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 9/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 9/17 (月) 和白干潟通信128号編集会議
- 9/18 (火) 日本自然保護協会の「自然しらべ2018」  
「身近なアリしらべ!」観察会
- 9/21 (金) 2018年秋期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 9/22 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 9/26 (水) 2018年秋期シギ・チドリ調査3回目  
(博多湾東部)

### 和白干潟の2018年6大ニュース

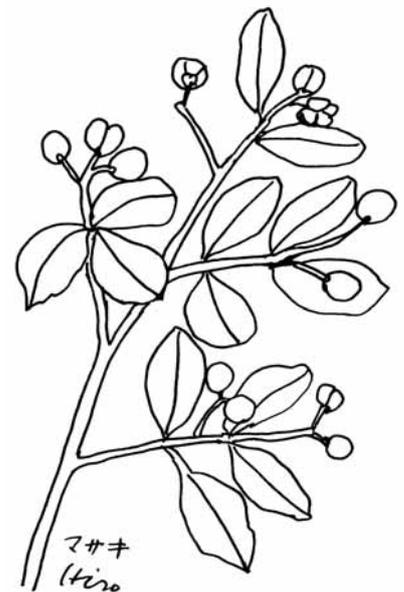
1. 30年誌「未来につなごう和白干潟」発刊
2. 「和白干潟を守る会創立30周年記念・日本自然保護大賞受賞記念シンポジウム」開催
3. 第30回和白干潟まつり大成功!
4. 日本自然保護大賞受賞
5. 「ふくおか地域づくり活動賞」準グランプリ受賞
6. 守る会ホームページリニューアル!  
(2018年12月25日の望年会にて)

## 2018年10月

- 10/9 (火) 和白干潟通信128号発送会
- 10/11(木) イオン黄色いレシートキャンペーン  
「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/13(土) アオサのお掃除大作戦3回目(保全のつどい)
- 10/14(日) 和白海岸探鳥会
- 10/20(土) MS & ADグループの和白干潟観察会とクリーン作戦
- 10/23(火) 筑陽学園中学3年生の校外理科学習
- 10/24(水) 和白小学校5年生の秋の和白干潟観察会
- 10/27(土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 10/30(火) 和白干潟まつり第2回実行委員会

## 2018年11月

- 11/3 (土) ダンロップグループの和白干潟観察会とクリーン作戦
- 11/8 (木) 玄海風の子保育園かぼちゃ組の和白干潟観察会  
「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 11/9 (金) 柏陵高校1年生の和白干潟観察会
- 11/10(土) 山・川・海の流域会議参加
- 11/11(日) 和白海岸探鳥会/イオン黄色いレシートキャンペーン
- 11/17(土) 九州産業大学宗像ゼミ特別講義「未来につなごう和白干潟!」
- 11/23(金) 「平成30年度ふくおか地域づくりフォーラム」で  
「ふくおか地域づくり活動賞」準グランプリ受賞
- 11/24(土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と干潟まつり会場整備
- 11/25(日) 第30回和白干潟まつり



## 干潟のつぶやき「干潟の地形が変わってアシ原がなくなるかも？」

センダン科センダン属に分類される落葉高木で、和白干潟では海岸にたくさん自生しています。アシ原の浜辺近くにもセンダンの木がありましたが、5～6年前からアシ原前の砂浜が波による浸食を受けて、少しずつ砂が砂洲の方に移動しているようです。浜辺近くのセンダンの木は根元が波で洗われ、大きな根が姿を見せていましたが、たくましく育っていました。ところが、今年は根元の砂がなくなり、とうとう倒れてしまいました。潮の干満はありますが、特に潮流がある訳ではないのに大きな木を倒してしまう自然の力は驚きですね。現在では浜辺が4～5メートルほどアシ原側に後退し、今までアシ原の中にあつたハマボウの木まで迫ってきました。まさか「アシ原がなくなる?」ことはないと思いますが、心配ですね。  
(山之内)



倒れたセンダンの木



## 10/20 MS&ADグループの観察会とクリーン作戦

寒くも暑くもない観察会日和、子ども20名を含む105名が「MS & ADラムサールサポーターズ」のゼッケンをつけて参加。バードウォッチングでは、北の方向にクロツラヘラサギとミヤコドリとカモが一緒にいるのを望遠鏡で一度に見ることが出来て幸運でした。腐って白化したアオサの臭いに驚いている人がいました。小学生もアオサをたくさん載せたソリを一生懸命運んでいました。(有江)

## 10/23 筑陽学園中学校3年生70名の校外理科学習

山本代表の干潟の話から始まり、バードウォッチング。クロツラヘラサギ4羽が近くにいてよく観察できました。干潟の調査では、砂地や、砂泥地、泥地と岩場などの生き物、植物、干潟の汚染とアオサの班は守る会のガイドが指導し、その他4班は先生が担当されました。天候に振り回された一日でしたが、大雨にはならず、無事終わり、みんな楽しかったと満足した顔が印象的でした。(今村)



## 10/24 和白小学校5年生125名の秋の観察会

午前中の授業で観察会のオリエンテーションをして、各自が質問事項を準備していました。11月の「和白干潟まつり」で和白干潟について学習した内容をパネルで発表するそうです。干潟についての復習をしてから、バードウォッチングをしました。干潟の観察の時に「ハヤブサやトビのエサは何ですか?」「クルマエビはいっぱいいますか?」など子どもたちの質問が続きました。学習の成果を干潟まつりでどのように発表してくれるのか楽しみです。(有江)



## 11/3 「ダンロップ九州」と「日本ユネスコ協会連盟」の観察会とクリーン作戦

秋晴れのすがすがしい日でした。子ども9名を含む44名の参加者とガイドはお揃いの緑の帽子をかぶり、ゼッケンをつけました。バードウォッチングでは、干潮で鳥が遠くにいました。クリーン作戦では2歳ぐらいの子が子ども用の軍手をしてアオサを集め、お母さんと一緒にソリを引っ張っていました。小学生はもう一人前の動きぶりです。今日のような活動をしてくれる企業が増えたらいいなあと思いました。(有江)



## 11/8 玄海風の子保育園かぼちゃ組5歳児24名の観察会

バードウォッチングの時、ミヤコドリやクロツラヘラサギがかたまっていました。どの子もじっくりと飽きることなく何度も望遠鏡をのぞいていました。アシ原へ向かうと、ハマツナは紅葉で濃い赤になってきれいでした。ハマシオンの花も紹介しました。白化したアオサの説明をすると「知らなかったねえ」と言っていました。海の広場に戻る途中、子どもたちは小さなゴミも熱心に集めていました。(有江)

## 11/9 県立柏陵高校環境科学コース1年生39名の生物探究校外実習

山之内さんから和白干潟の紹介や渡り鳥、干潟の生き物や食物連鎖の話があり、興味深そうに真剣に話を聞いていました。バードウォッチングでは、ミサゴやカワウを実際に観てその雄姿に感動したように見えました。次にマガモやヨシガモのかわいらしさにも歓声が上がっていました。皆で採ったカニ、貝、海そうなどをゆっくりと見てもらいましたが、メモを取る生徒が多くいました。長靴やバケツ、ショベルなどを持参し、熱心で素直な生徒ばかりで気持ちよかったです。(松田)



### 新年度の会費納入をお願いします!

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためにお願いします。

- ★年会費 個人2,000円、団体5,000円
- ★郵便振替 01720-4-23860  
和白干潟を守る会

- ★同封の振替用紙をご利用下さい。
- ※郵便局の受領書を領収書に替えさせて頂きます。
- ※行き違いの際はご容赦下さい。



# 和白干潟を守る会 2019年度総会を開催します！

日時: 2月23日(土) 10時半～13時 場所: 和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担などをみんなで意見を出し合い、決定します。(2月臨時定例会議を引続き開催します)

## 定例スケジュール

### 定例会議(1/26, 2/23, 3/23)

毎月第4土曜日10時半～13時 守る会事務所にて開催。

時間変更などの事前確認をして、ご参加下さい。

和白干潟を守る会事務所・・・福岡市東区和白1-14-37きりえ館1階

以下は参加自由です。仲間が待っています！

### クリーン作戦と自然観察(1/26, 2/23, 3/23)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。

### 和白海岸探鳥会(2/10, 3/10, 4/14) 主催: 日本野鳥の会福岡支部

毎月第2日曜日9時～12時 JR 和白駅前の和白公園集合 参加費: 野鳥の会会員 100円、一般300円



会員募集中!

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860  
和白干潟を守る会

和白干潟を守る会の  
ホームページをリニューアル

新しくなったホームページを  
ぜひご覧ください!

<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

## 和白干潟の鳥たち(その85)

### スズガモ(カモ目カモ科 Greater Scaup) 鈴鴨 [全長45cm]



(写真撮影: 三宅 僚)

スズガモは冬鳥として和白干潟を訪れています。1990年代には15000羽のスズガモが飛来していましたが、和白干潟沖の人工島工事着工以来減少して、現在は2000羽程が飛来し越冬しています。スズガモは海ガモ類で和白干潟でも沖合の水深2～3m海域に浮かんでおり、潜水してアサリなどの貝類を採食しています。1000羽を超える大群で飛ぶ時に「シュリシュリ・・・」という大きな羽音を立てるので、この羽音から鈴鴨の名がついたそうです。沿岸から見ると、スズガモの群れは、黒い帯のように一列に続いています。中にはホオジロガモやホシハジロなども混じっています。白くて長い首のカムリカイツブリも動き回っていて、皆良く潜ります。和白海域の魚や貝の豊かさが感じられます。(山本 廣子)

## 守る会問い合わせ窓口 ホームページ <http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

入会/観察会(申込等)・・・山之内芳晴

Tel/Fax.092-944-1543

クリーン作戦・・・田辺スミ子

Tel 090-1346-0460

広報/調査/定例会議・・・山本廣子

Tel/Fax.092-606-0012

干潟まつり・・・今村恵美子

Tel 090-3413-6443



【編集】山之内 芳晴・田辺 スミ子・今村 恵美子・高田 将文・山本 廣子

<カット>くすだひろこ

次号は2019年4月発行予定



【編集後記】第30回記念の和白干潟まつりは、タッチプールや自然遊び、お絵かきコーナーなど、子どもたちに大人気でした。たくさんのお子さんが和白干潟で遊ぶ姿は私の子ども頃の和白干潟を見ているようです。希望を感じました。(山本 廣子)